

**第501回 7月26日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕 伊藤 芳明
大村 英昭 木下 明美
櫻井 美幸 森 輝彦
黒田 勇(書面参加)

◆ ラジオ番組「ネットワーク1・17スペシャル

～震災10年を超えて～

5月30日（月）午前2時15分～3時15分放送

毎日放送の第501回番組審議会は7月26日大阪市北区の本社で開かれ、5月30日に放送したラジオ番組「ネットワーク1・17スペシャル～震災10年を超えて～」を審議しました。毎日放送では阪神大震災の直後から、毎週、震災番組「ネットワーク1・17」の放送を続けており、今回は被災者たちの10年をまとめた特別番組です。

委員の主な意見

*震災をたくましく乗り越えた被災者というのは、比較的描きやすいと思うが、取り残されたり、まだ救われない、苦しんでいる人たちがいて、被災者の数の分だけ震災の状況があるということをきちんと伝えている番組。特番は放送が深夜で非常に聞きにくい時間帯だ。

*一番かけがえのない人を失った人々の“ロス体験”をどう癒せるか、立ち直っていくのにどうアドバイスができるのか。死んだあの子はどこへいったのかしら」そういう問いかけが一番つらい。

この番組の4つのエピソードは、個別事例だが、普遍的なものだと思う。

*スポンサーなしで続けていると聞き、びっくりした。放送局としての社会的貢献である。こういう地味なのをこつこつとやっている、何か起こった時に、そのストックは絶対生かされる。

*ラジオは想像力をかきたてるメディア。われわれが思いつかないようなディテールが入っていると、ものすごく場面が生きる。震災のことを訴えるため、自転車日本一周をした8歳と5歳の兄弟の「僕たちは困ってないからやるんや。ほんとに困っている人はやりたくてもやれない」との言葉は番組に力を与えている。

* 阪神大震災直後から続けられている震災番組は全国でもこの番組だけのこと。こういう番組を続けることで、いざという時にMBSラジオを聞く人が出てくる。MBSの報道力、継続的な努力を感じる。

* この10年余り情報を収集、分析したり、いろいろ検討を加えた上で「ネットワーク1.17」をやっている。その10年のストックは、やっぱりすごいものがある。放送は文化である」ということを標榜している毎日放送にとってなくてはならない番組だ。

* 担当者はトルコや台湾で起きた地震の際も取材に向かい、メディア内での地震知識の蓄積とネットワークの拡大にも努め、また自治体、研究機関との連携でシンポジウムの開催など、番組の送出で終わらせず、取材から現場との連携による実践というサイクルを作り出していることも見逃せない。自然災害大国である日本においてライフラインとしてのローカル局の役割は、災害時だけでなく日常こそ大きいと言わなければならない。

◆ ラジオ・夏季聴取率調査について

6月に行われたラジオの夏季聴取率調査の結果について、ラジオ局長が報告しました。